



衣川 官介

## 『たたらサミットin 姫路 10』

姫路科学館の前庭に夕日が長い影を落としはじめました。『最後の一回だよ！！誰が入れるの』朝から頑張っていた子供達に村下（むらげ）さんが言いました。『ハイ』大きな声で返事したのは小さな女の子でした。小学3年生位かな？炉の側の投入台によじ登り、お手伝いのお兄さんが手渡してくれたスコップの中の砂鉄を、続いて箕（み）の中の木炭を入れました。早朝は木炭を、炉の温度が上がると、砂鉄1.5 kg 木炭2.0kgを10分ごとに10数回投入する作業が終了。誰からともなく、パチパチパチ拍手が沸き起こりました。

炉の中の木炭が燃えて無くなってゆくのを待ちます。少し時間に余裕の出来た子供達は他のたたら炉を見に行ったり、鍛冶教室として明珍さんが火箸を打っているところをのぞき自分で火箸らしきものを作った子供もいます。『これ僕が作った！！』誇らしげにお母さんに報告。

村下さんとお手伝いのお兄さん達が炉を丁寧に崩し始めました。まだ熱いので注意しながら、上のコンクリートブロックを順々に壁際にそろえて積みます。4段目からは耐火レンガ、木炭が燃えて下がっているのが見えました。覗き込む子供たちに『危ない！！』村下さんが叫びます。少し離れて見ていますが、又近づきます。こんなことを繰り返しているうちにケラ（鉄塊）が見えてきました。『離れて！！離れて！！』迫りよって来る子供達を退けてスコップでケラをすくい、水の張られたアルミ製の桶に入れました。『ジュー・ジュー、ブクブク・ブク』モクモクと上がる湯気と共に激しい水音がします。初めて見た、自分たちの手で作った鉄塊に『ワーワー！！やった！！出来た！！』子供達の喜びの声が上がりました。



## たたら製鉄

6世紀頃に我が国へ伝わって来たと言われる製鉄法。砂鉄を原料に、粘土で作った炉に木炭で還元して鉄を作ります。『ズク押し』と呼ばれる鑄鉄を作る方法と『ケラ押し』と呼ばれる鉄塊を作る2種類の操業法があります。

炉づくり・火入れ・（砂鉄投入・木炭投入）を昼夜分かたず2～3日繰り返す過酷な作業です。今回は小さな炉で早朝から炉作りをし、午前10時頃から火入れ、午後3時ころの終了予定でした。

『鉄のふしぎ博物館』開館

来て！見て！ふれて！ ふしぎ体感

鉄を見る目が変わりますよ。

ぜひお越しください。

餅鉄 天然磁石



2010年12月5日

村下（むらげ）：  
たたら製鉄の責任者

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください！！